

# 中期経営計画

計画期間：2021年4月～2024年3月

株式会社 じもとホールディングス

# 目 次

---

1.	前計画までの成果と課題	・ ・ ・	3
2.	経営環境 – 5年、10年後の姿 –	・ ・ ・	4
3.	経営理念と目指す姿	・ ・ ・	5
4.	計画の基本方針と施策 (本業支援、業務変革、経営管理)	・ ・ ・	6
5.	収益計画及び経営指標	・ ・ ・	9

# 1. 前計画までの成果と課題

- ・当社グループは、設立以来、「本業支援」と「統合効果」を中期経営計画の主題とし、中長期的な取り組みを継続。
- ・宮城と山形をつなぎ、グループの体制整備とノウハウ共有を通じ、復興支援と中小企業支援、グループ効率化を実現。
- ・一方で「収益力」は、マイナス金利政策の影響等で逡減。2020年度は有価証券運用再構築の損失により赤字決算へ。

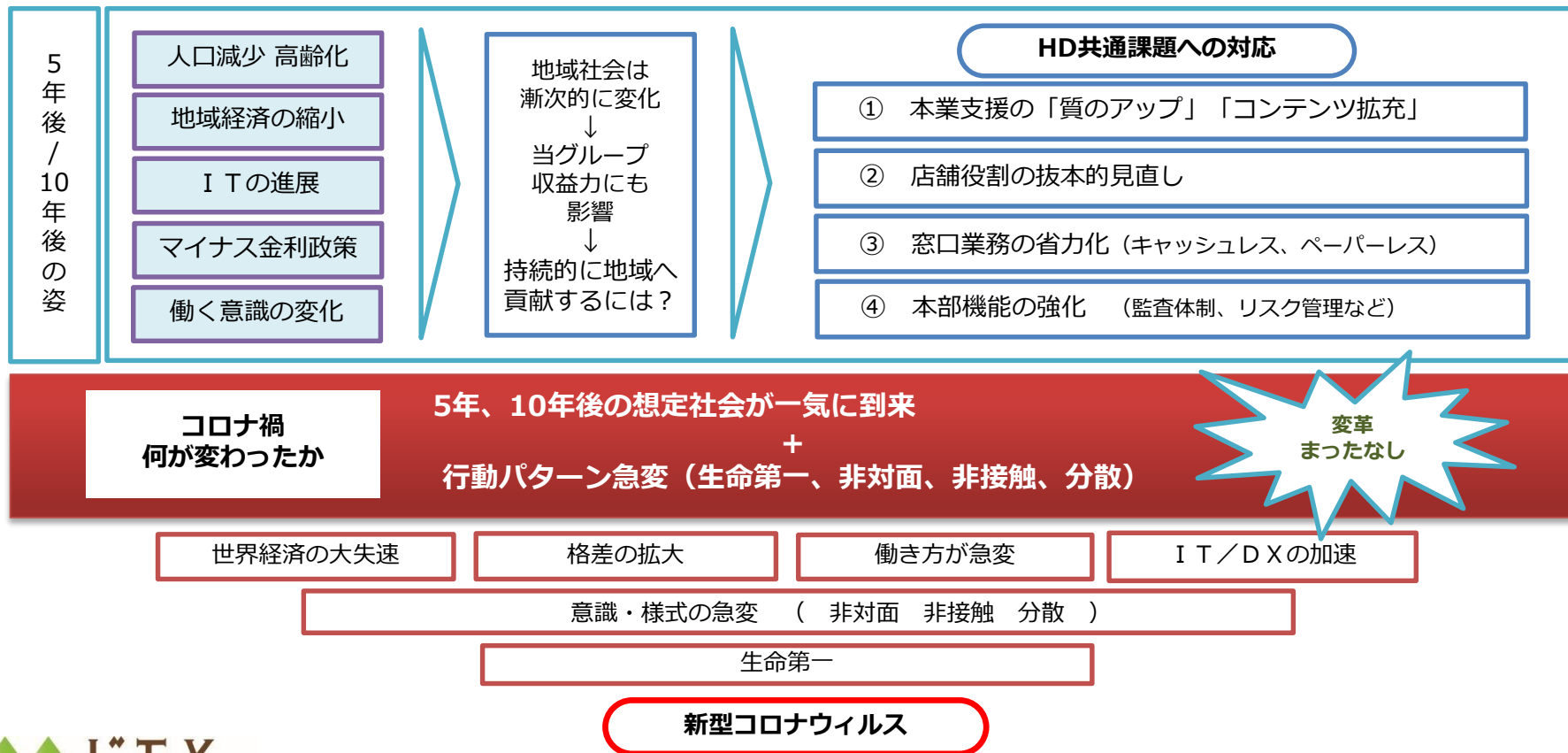
【図1】じもとグループ設立以来の中長期的な取組み実績（2012～2020）

	HD設立時計画 (2012～2014)	HD中期経営計画① (2015～2017)	HD中期経営計画② (2018～2020)	HD中期計計画(新) (2021～2023)
	東日本大震災復興支援、中小企業成長支援			コロナ禍による環境激変
主題と成果	<p>◆本業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災復興支援</li> <li>・HD本業支援戦略部の設置</li> <li>・宮城と山形をつなぐ運動</li> <li>・本業支援研修会</li> </ul> <p>◆統合効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サブシステム統一</li> <li>・コスト削減コンサル導入</li> </ul> <p>◆経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部組織、会議運営統一</li> <li>・法令改正へ共同対応</li> </ul>	<p>◆本業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京TYFG提携（きらぼしFG）</li> <li>・仙台合同新規開拓チーム</li> <li>・じもと創生本業支援ファンド</li> </ul> <p>◆統合効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勘定系システム統一</li> <li>・新事務センター業務委託</li> </ul> <p>◆経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ規程統一</li> <li>・経費削減</li> </ul>	<p>◆本業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業成長戦略（両行）</li> <li>・仙台地区営業戦略</li> <li>・新型コロナ資金繰り支援</li> </ul> <p>◆統合効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場金融部オフィス集約</li> <li>・市場バックオフィス統一</li> </ul> <p>◆経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査等委員会設置会社移行</li> <li>・SBI資本業務提携</li> </ul>	<p>&lt;計画策定の視点&gt;</p> <p>コロナ禍で 社会環境が激変</p> <p>↓</p> <p>グループ経営理念を 改めて徹底 宮城と山形をつなぎ 本業支援を通じて 中小企業に貢献</p> <p>↓</p> <p>ガバナンス態勢、 経営基盤を強化、 収益回復へ</p>
連結利益	57億円（2014年度）	34億円（2017年度）	▲31億円（2020年度）	

## 2. 経営環境 - 5年後、10年後の姿 -

- ・当社グループは、HD・子銀行取締役会にて「5年後、10年後の姿」をテーマに中長期的な経営課題を継続的に協議。
- ・コロナ禍によって、5年後、10年後に想定していた社会が一気に到来、社会の行動様式も急変する状況へ。
- ・また、当社グループに対するステークホルダーの期待は、赤字決算と減配などにより、厳しい目線に変化。
- ・当グループが直面する様々な課題に対して、これまで以上の「スピードカ」で対応することが重要な課題に。

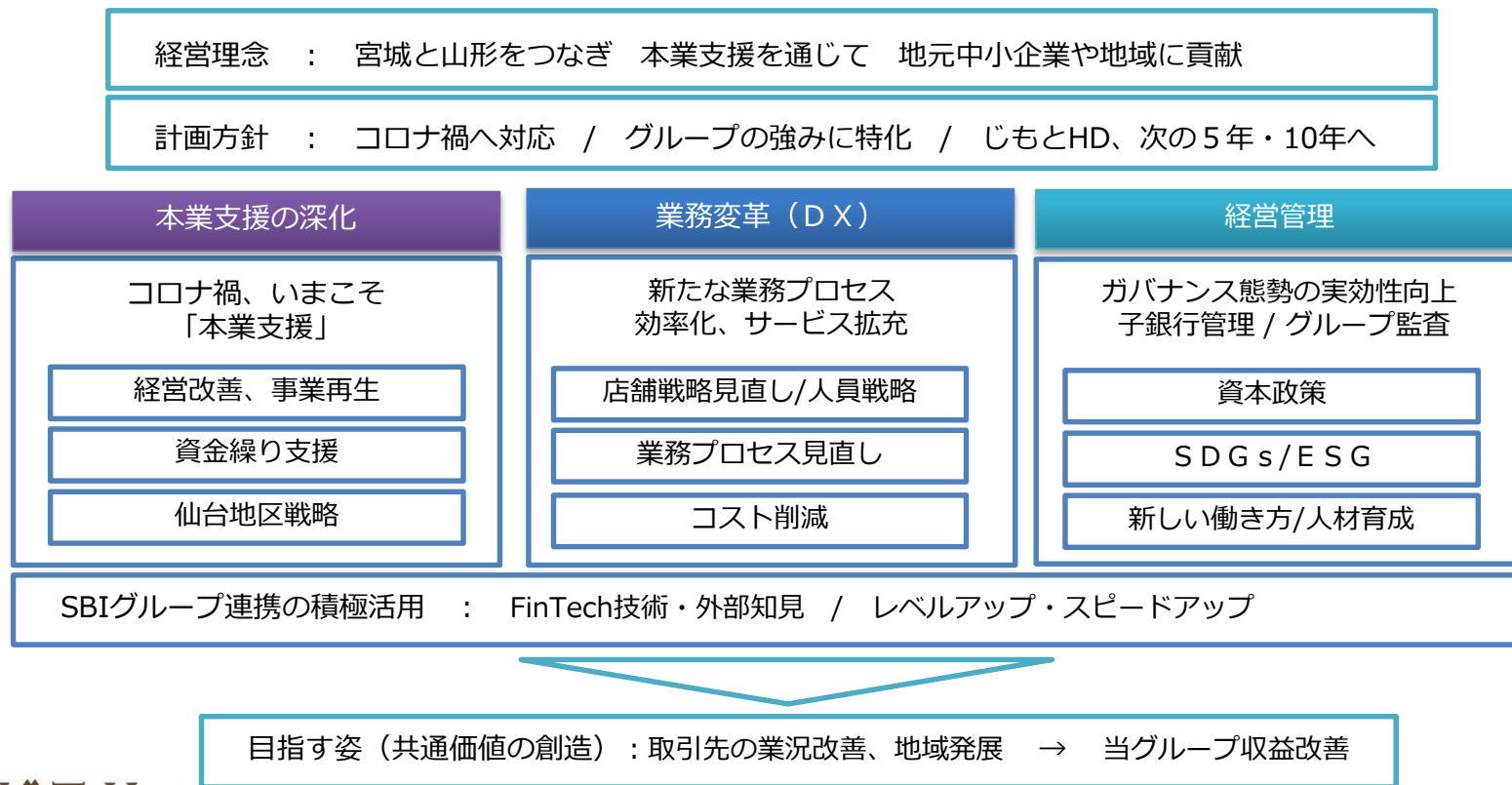
【図2】5年後、10年後の姿、コロナ禍の影響（取締役会議論）



### 3. 経営理念と目指す姿

- ・当グループの経営理念は、「宮城と山形をつなぎ、本業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」こと。
- ・本計画では、コロナ禍への対応が重要課題。グループの強みである「本業支援」をさらに深化させ、取引先に貢献する。
- ・次の5年、10年後を見据え、SBIグループ連携を積極活用し、業務変革のスピードアップ、経営管理の高度化を図る。
- ・これらの取り組みを通じ、取引先業況の改善、グループ収益改善へつなげる「共通価値の創造」の実現を目指していく。

【図3】新中期経営計画の経営理念と目指す姿（2021～2024）



## 4. 計画の基本方針と施策（本業支援）

- ・「本業支援」は、子銀行の「中小企業成長戦略」を深化させ、取引先の経営改善、信頼関係構築、取引拡大につなげる。
- ・コロナ禍では「経営改善・事業支援」が重要課題。SBIグループ、コンサル子会社の連携等でレベルアップを図る。
- ・宮城と山形をつなぐ取り組みは、新たなビジネスマッチング手法を導入するなど、両行取引先の課題解決に貢献する。
- ・グループの情報共有を密にし、共同施策を検討・追加するなど、グループ統合効果をさらに発揮する。

【図4-1】「本業支援」の基本方針と施策区分（2021～2023）

HD共同施策 (両行が共同で重点対応)	HD共通施策 (グループ方針を共有し、各行が対応)	BK個別施策 (市場に応じて、各行が対応)
宮城と山形をつなぐ取り組み 新たなビジネスマッチング導入	《中小企業成長戦略の深化》 本業支援による取引先の経営改善 (信頼関係構築、取引拡大)	(その他営業戦略)  個人向け戦略
経営改善・事業支援（事業承継、M & A等） SBIグループ、コンサル子会社の連携等でレベルアップ		子会社戦略
法人役務手数料		
仙台地区戦略		
SBIグループ連携の積極活用 本業支援や営業戦略の提案メニュー拡大、グループ収益向上へ		

## 4. 計画の基本方針と施策（業務変革DX）

- ・コロナ禍による社会経済の変化、急速なDXの進展などの環境変化に応じた、スピード感ある業務変革が重要課題。
- ・「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で進め、経営資源を効率的に再配分。営業体制の増強につなげる。
- ・とりわけ「業務効率化・DX」は、SBIグループのノウハウを積極活用し、グループ全体で一層の統合効果を追求する。
- ・サブシステム更新対応、コスト削減など、これまで蓄積した効率化ノウハウも継続し、経営効率化につなげる。

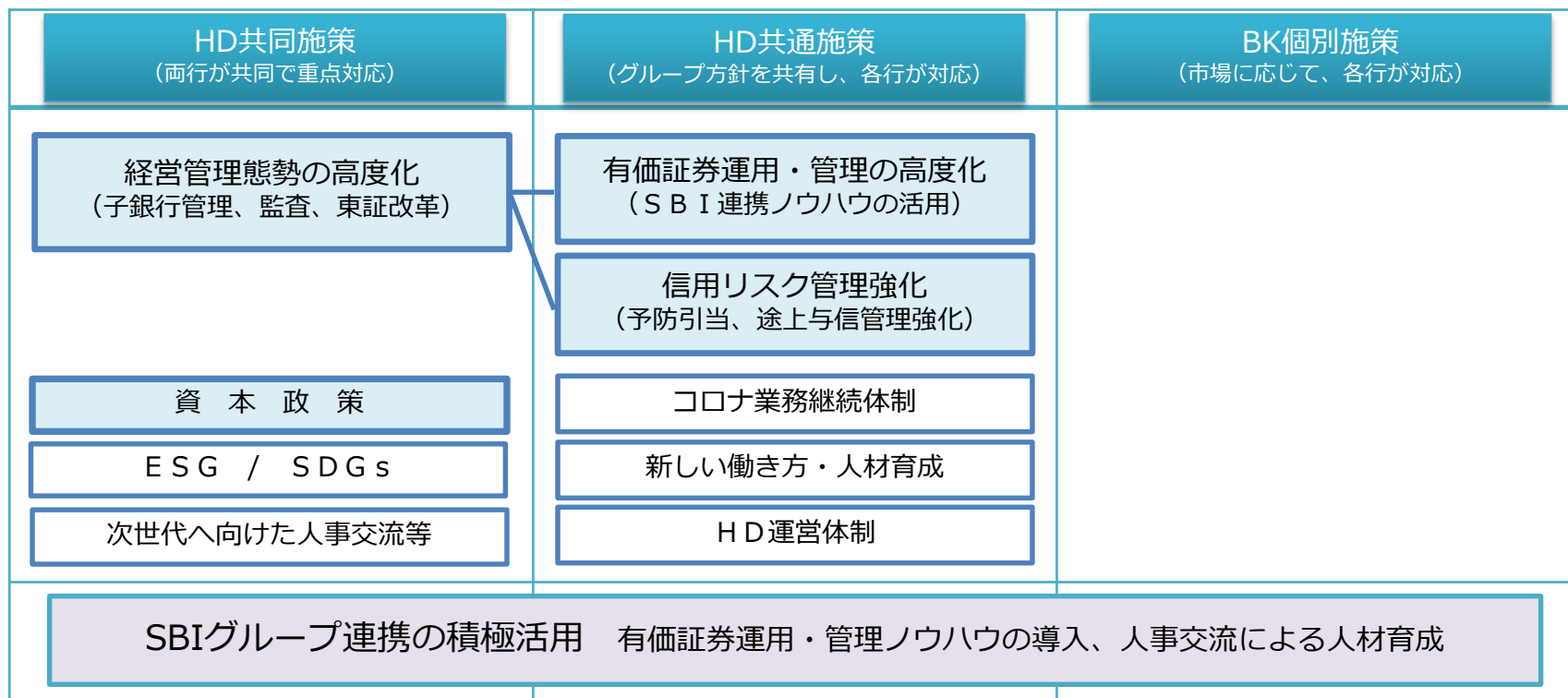
【図4-2】「業務変革DX」の基本方針と施策区分（2021～2023）

HD共同施策 (両行が共同で重点対応)	HD共通施策 (グループ方針を共有し、各行が対応)	BK個別施策 (市場に応じて、各行が対応)
<p>《業務効率化・DX》 両行共通・重複業務、組織の効率化 新たな業務プロセスの創出</p> <p>※ペーパーレス、WEB口座、IB推進 タブレット活用、WEB会議等 ※SBIノウハウを積極活用</p>	<p>《店舗戦略の見直し》 店舗統廃合による集約化、効率化 非対面取引の拡充</p> <p>《人員戦略》 人員の適正化 渉外担当者への再配置</p>	<p>業務全般にわたる見直し・効率化</p>
<p>サブシステム更新 コストダウン/効率運用の再検証</p>	<p>コスト削減・OHR改善</p>	
<p>SBIグループ連携の積極活用      FinTech技術、DX対応等の多様なノウハウ活用、変革を進める</p>		

## 4. 計画の基本方針と施策（経営管理）

- ・子銀行の有価証券運用は、SBIグループのノウハウを積極活用し、運用管理体制の高度化や人材育成を進める。
- ・信用リスク管理は、コロナ禍の中長期化に備えて、予防的な貸倒引当計上、途上与信管理の強化に取り組む。
- ・子銀行管理やグループ監査の強化、東証市場改革への対応等により、ガバナンス態勢の実効性向上に取り組む。
- ・グループの資本政策については、中長期的な視点も含めながら、継続的に検討を進める。

【図4-3】「経営管理」の基本方針と施策区分（2021～2023）





## 5. 収益計画及び経営指標

2021年5月14日現在

【表5】損益項目、BS項目と経営指標（2021～2023）

じもとHD（連結）		2021/3期 始期	2022/3期 計画	2023/3期 計画	2024/3期	
					計画	始期比
損益項目	コア業務純益（投信解約益等を除く※1）	46億円	55億円	62億円	71億円	+25億円
	経常利益	▲22億円	37億円	48億円	59億円	+81億円
	親会社株主に帰属する当期純利益	▲31億円	31億円	37億円	45億円	+76億円
BS項目 （2行合算）	貸出金平残	1兆8,214億円	1兆8,470億円	1兆8,702億円	1兆8,936億円	+722億円
	預金平残	2兆4,738億円	2兆5,039億円	2兆5,052億円	2兆5,151億円	+413億円
経営指標	自己資本比率	8.1%	8.0%程度	8.1%程度	8.2%程度	+0.1P
	コアOHR（投信解約益等を除く※2）	83.5%	80.7%	78.7%	75.8%	▲7.7P
	ROE	▲2.7%	2.5%	3.0%	3.3%	+6.0P
	顧客向けサービス業務利益 ※3（2行合算）	15億円	14億円	19億円	28億円	+13億円

※1,2 投信解約益等 = 投信解約益 + 債権売却益

※3 顧客向けサービス業務利益 = 貸出金残高×預貸金利回差+役務取引等利益 - 営業経費

## 5. 収益計画及び経営指標

2021年5月14日現在

きらやか銀行（単体）		2021/3期 始期	2022/3期 計画	2023/3期 計画	2024/3期	
					計画	始期比
損益項目	コア業務純益（投信解約益等を除く※1）	20億円	31億円	32億円	38億円	+18億円
	経常利益	▲43億円	15億円	20億円	26億円	+69億円
	当期純利益	▲48億円	15億円	17億円	22億円	+70億円
B S 項目	貸出金平残	1兆302億円	1兆135億円	1兆81億円	1兆31億円	▲271億円
	預金平残	1兆2,904億円	1兆2,954億円	1兆2,854億円	1兆2,754億円	▲150億円
経営指標	自己資本比率	8.0%	8.1%程度	8.3%程度	8.4%程度	+0.4P
	コアOHR（投信解約益等を除く※2）	86.3%	79.9%	79.0%	75.1%	▲11.2P
	ROE	▲7.4%	2.4%	2.6%	3.2%	+10.6P
	顧客向けサービス業務利益 ※3	5億円	8億円	8億円	14億円	+9億円

仙台銀行（単体）		2021/3期 始期	2022/3期 計画	2023/3期 計画	2024/3期	
					計画	始期比
損益項目	コア業務純益（投信解約益等を除く※1）	30億円	28億円	33億円	36億円	+6億円
	経常利益	19億円	20億円	27億円	31億円	+12億円
	当期純利益	17億円	15億円	20億円	23億円	+6億円
B S 項目	貸出金平残	7,911億円	8,334億円	8,620億円	8,905億円	+994億円
	預金平残	1兆1,833億円	1兆2,084億円	1兆2,197億円	1兆2,396億円	+563億円
経営指標	自己資本比率	8.3%	8.0%程度	8.0%程度	8.0%程度	▲0.3P
	コアOHR（投信解約益等を除く※2）	77.0%	78.5%	75.3%	73.6%	▲3.4P
	ROE	3.4%	2.8%	3.6%	3.9%	+0.5P
	顧客向けサービス業務利益 ※3	9億円	5億円	10億円	14億円	+5億円

※1,2 投信解約益等 = 投信解約益 + 債権売却益

※3 顧客向けサービス業務利益 = 貸出金残高×預貸金利回差+役務取引等利益 - 営業経費